

研究のなまえ「小児期同種造血細胞移植後長期生存者の QOL の検討～慢性 GVHD の臓器別の影響および評価者による相違～」

どんなことを調べようとした研究ですか？	20 歳未満で造血細胞移植を受けた患者さんの QOL について、移植後の代表的な合併症である慢性 GVHD との関連を調べました。同時に、患者さんの QOL を、①本人による評価、②家族による評価、③主治医による評価でどのような差異が生じるかも調べました。
どんな人に調査しましたか？	1995 年～2009 年に小児科で血縁または非血縁ドナーから造血細胞移植を受け、その後 2 年以上再発なく生存されている方について、本人、家族、主治医を対象に調査を行いました。
何人くらいからお答えいただきましたか？	全国から、本人：343 人、家族：138 人、主治医：372 人に回答を頂きました。
どんな結果でしたか？	<ul style="list-style-type: none"> ・ QOL は Visual analogue scale (VAS) を用いて評価しました。 ・ 慢性 GVHD について 頻度の高い順番に、皮膚症状は 17%、口腔（口の中）の症状は 12%、関節症状は 9%の方にみられました。この中で皮膚症状と関節症状は比較的重い症状の方が多くみられました。 ・ 慢性 GVHD と QOL の関連について 皮膚症状、関節症状、消化管症状がみられると、QOL は低下する傾向がみられました。関節症状があると主治医に比べて本人や家族の方が QOL が低いと評価する傾向がありました。一方呼吸器症状があると、本人や家族に比べて主治医の方が QOL が低いと評価していました。 ・ 本人、家族、主治医による QOL の評価の差異について 主治医が評価した QOL は本人や家族が評価した QOL より高い傾向がありました。特に本人が 16 歳以上だと主治医評価と本人評価の差が大きくなりました。また 15 歳以下では本人評価と家族評価は近似していました。
どんなことが分かりましたか？	外来診療で主治医が本人の QOL を把握することは難しく、特に生命を直接脅かすことが少ない皮膚・関節症状においてはそれらが及ぼす生活への支障に注意する必要があると思われました。
これからこの研究はどのように役立ちますか？	身体症状だけでなく生活への支障を念頭に置いた多様で丁寧な長期フォローアップを外来で行うには多職種の間が大切であることが明らかとなりました。長期フォローアップ外来を多職種で行うための体制整備が大切であることを裏付ける結果となりました。
詳しく知りたい場合のリンクは？	Int J Hematol. 2022 Jan;115(1):123-128. doi: 10.1007/s12185-021-03227-2. Epub 2021 Oct 3.

文責：早川 晶（淀川キリスト教病院 緩和医療内科）